



11月1日に開館20周年を迎える田辺市立美術館

## REPORT

昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ

- 記念講演会「佐伯祐三と1930年協会」  
【日時】7月23日(土)午後2時～午後3時30分
- 記念講演会「前田寛治と1930年協会」  
【日時】8月6日(土)午後2時～午後3時30分
- 記念演奏会「近代フランスのヴァイオリン音楽」  
【日時】8月20日(土)午後7時～午後8時30分

の林野雅人さんにお越し頂いてお話を伺いました。ともにそれぞれの館の所蔵品の主となる画家についての解説で、継続的な調査と研究の成果をお伝えすることができたものと思います。

会期の終盤に、閉館後のエントランスホールを会場に

したコンサートを行いました。ヴァイオリニストの松田淳一さんとピアニストの松田淳子さんのご理解をいただき、日本の若い画家たちが学んでいたパリで発表された

楽曲や、彼らが親しんでいた音楽によるプログラムを組むことができました。当時の新しい芸術の動向や、美術家と音楽家の交流などについて解説を交ながら進行しました。

展覧会のテーマとなった時代の状況について、細部を

うかがうことと視野を広げることを目指した、講演会と

コンサートでした。いずれも熱心な方が最後まで集中して参加してください、たいへん充実した催しとなりました。

ご来館いただいた皆様、お力添えをいただいた方々に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

(学芸員 三谷 涉)



7月9日(土)～8月28日(日)



8月6日



8月20日

## コレクション展に行こう!

田辺市立美術館開館20周年を記念してスタンプラリーを行います。コレクション展「文人画」「現代絵画」「近代絵画」の3つの展覧会を観覧し、スタンプを集めて、アンケートにご協力いただいた方に図録「吉岡堅二展」をプレゼントします。さらにプレゼントを美術館まで取り来てに頂ける方には、特別展「生誕110年記念 吉岡堅二展」にご招待します。応募は下のはがきにスタンプを全て集めて、アンケート・住所・お名前をご記入の上、田辺市立美術館受付の回収BOXに入れていただくか、郵送してください。締切は、平成29年2月2日(当日消印有効)です。

田辺市立美術館では、年2回田辺市立美術館NEWS「ORANGE」を発行し、美術館の活動をお伝えしています。

皆様のご意見をいただき、より良い広報紙となるよう活かしたいと考えています。趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

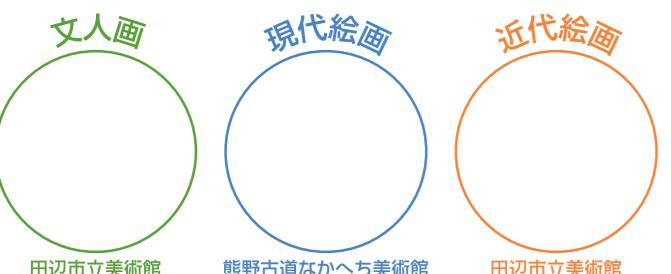
※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送のみに使用し、「田辺市個人情報保護条例」に基づいて適切に管理いたします。

郵便はがき

6450015

和歌山県田辺市たきない町24-43

田辺市立美術館NEWS ORANGE vol.25  
スタンプラリー・アンケート係 行



住所	—
お名前	—
プレゼントの受取方法	<input type="checkbox"/> 郵送 <input type="checkbox"/> 来館

## 絵画と出会う「この一点!」

### 特別展 生誕110年記念 吉岡堅二展

会場：田辺市立美術館

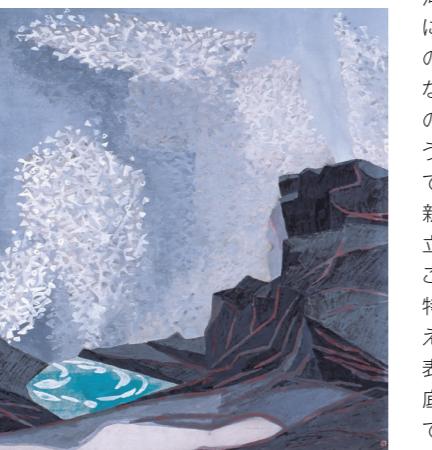
会期：平成29年2月11日(土)～3月26日(日)

吉岡堅二(1906～1990)は、伝統的な日本画の表現に飽きたらず、早くからその刷新に意欲を持って取り組んだ画家の一人である。同世代の洋画家たちの活動に刺激を受けて、フォービズムやキュビズムといった、西洋の新しい様式にも強い関心を寄せ、それを自身の制作のために積極的に吸収していく。

図版の《濤》(なみ)は、30歳代前半の吉岡が、銚子半島先端の断崖、犬吠崎に取材してモチーフを得た作品で、その岩礁と波濤を、抽象化した形象の造形によって表現し、ダイナミックさとリズム感をもつた画面に構成している。

従来の日本画とは一線を画しながらも、銀箔の効果が活かされた海の表情や、線描による力強い岩の造形は、古典的な描法についての力量も充分にうかがわせるものである。吉岡の革新性が他から際立っているのは、こうした日本画の特性を熟知したうえでの意欲的な表現の開拓を根底としているためであろう。

(学芸員 三谷 涉)



吉岡堅二《濤》 1939(昭和14)年 千葉県立美術館蔵

## 田辺市立美術館NEWS ORANGE vol.25

編集・発行：田辺市立美術館／熊野古道なかへち美術館  
発行年月日：平成28年10月1日

### 田辺市立美術館

〒640-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43  
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771  
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

### 熊野古道なかへち美術館

〒641-1402 和歌山県田辺市中路町近露891  
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393  
http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/

## 編集後記

ORANGE vol.25をお読みいただきありがとうございます。今回、初の試みのスタンプラリーを行います。開館20周年を迎えるということで、特典は相当頑張りました!大奮発です(笑)。また20周年記念のコレクション展では展示解説会の他に、私の「この一点!」シンポジウム(詳しくはHPをご覧ください)も行いますので、ぜひご参加ください!

(担当m.m.)

田辺市立美術館NEWS

Vol.25

# ORANGE



1967(昭和42)年

## 作品紹介 渡瀬凌雲《潮岬》

田辺市立美術館蔵

凌雲は1958(昭和33)年11月、日米双方の有志による支援を背景に、文化交流と南画の紹介を目的として単身渡米した。翌年9月に帰国するまでの10ヵ月間、各地を巡って個展の開催や南画のデモンストレーションを行いながら、立ち寄った先々では精力的に景色や風物、生活などをスケッチし、写真や日誌なども含め詳細に記録していくが、この地での経験は凌雲のその後の作風を大きく変える分岐点となつた。

帰国後の1960(昭和35)年、松林桂月、河野秋邨らとともに日本南画院を再興して、第1回展では《瀬峠》を発表、第2回展では《残照グランドキャニオン》を発表する。そこで見られたのは伝統的な中国の山水風景表現で行われていた墨の描線を多用する繊細で枯淡な表現ではなく、墨の濃淡をダイナミックに使用した自由で豪胆な表現への変化であった。本図もこのような中で描かれた作品の一つで第7回日本南画院展に出品されたものである。岩肌と同様の手法で波濤を描くことで、岩と波との荒々しいぶつかり合いが表現されている。

(主任 辰巳 充)